

# 日本災害看護学会先遣隊 令和元年台風第19号活動報告（栃木県）

令和元年10月26日（土）

活動メンバー：大野かおり、山下留理子

## 1. 活動の概要

- 1) 活動日時：令和元年10月26日（土）8時30分～17時30分
- 2) 活動場所：栃木県足利市・佐野市
- 3) 活動目的：災害発生から2週間が経過した被災地被災者と被災地支援者の健康問題・看護ニーズ等の情報収集を行いアセスメントする。また、それらの情報に基づき、必要な支援を明確にし、支援体制の調整を図る。
- 4) 活動時の状況：台風第19号による河川の氾濫等の被災後、15日目。

## 2. 活動の実際

時刻	活動内容
9:15～	宇都宮市内宿泊先出発
10:40	<p>足利市役所到着</p> <p>➤ 健康増進課職員からの情報</p> <p><u>発生後からこれまで</u>：約1,000世帯が床上・床下浸水等の被災を受けた。足利市内における死者は車中での死亡1件であった。10月25日ですべての避難所を閉鎖した。被災者は公営住宅にみなし（仮設）で入居している。現在は罹災証明書等の各種手続き場所、老人保健施設、開放された入浴施設、小学校等、住民が多数集まる所で健康相談を実施し、健康観察や保健指導、関係機関との連携を図っている。</p> <p>10月25日に台風21号と低気圧の影響による土砂災害の危険がある地域で避難所を開設したが、被害なく閉所した。</p> <p><u>今後の予定</u>：10月28日から、保健所、地域包括支援センター、保健センター等が連携し、短期・集中的に被災地域の全戸訪問を行い、潜在的なニーズの掘り起こしと、要配慮者をはじめとする被災者の健康面における予防策を講じる。</p> <p><u>課題となっていること</u>：①日ごろの業務に加え、全戸家庭訪問を効果的に行うには、マンパワーが必要である。職員はイベント開催による出勤もあり、十分な休養が確保できていない。</p> <p>②災害ごみが大量で処理に2週間かかっている。日頃、事務に従事している職員が、継続して処理作業にあたっているが、心身の疲労が蓄積している。</p>
12:00	<p>➤ 全戸訪問における看護職のマンパワー確保について、健康増進課職員と検討した。</p> <p><u>考察</u>：保健活動は初動の段階から被災地住民の健康ニーズに合わせた支援展開に移行している。適時に住民の健康ニーズを把握するにはマンパワーが必要であるが、十分に確保できない状況である。さらに、保健師をはじめ職員の心身</p>

12 : 30	<p>の疲労の蓄積も大きいことから、マンパワー確保につなげる支援が必要である。中長期的に、公営住宅でみなしの生活を送る被災者の健康・生活の支援も必要となることが考えられる。</p> <p>▶ 担当理事に電話連絡。全戸訪問のマンパワー確保について、学会として支援できることはないか協議する。</p>
13 : 00 13 : 15	<p>県災害対策会議による資料から、「床上浸水」、「入所者・利用者が避難」を行ったとの報告があった足利市内の「看護小規模多機能型居宅介護施設」を訪問した。不在のため、面会できなかった。</p>
13 : 45	<p>佐野市到着</p> <p>▶ さの地域包括支援センター（佐野市社会福祉協議会）職員より情報をいただく</p> <p><u>被災状況</u>：床上・床下浸水をあわせ、約 2,700 世帯が被災した。「独居世帯」「高齢者世帯」が多く被災した地域もある。</p> <p><u>発生後からこれまで</u>：担当するケースや事業所に委託しているケースを含め、すべての対象者に、直接または電話による安否確認、健康状態、生活状況の把握を行った（発生後から 2 日目までをめぐり）。</p> <p><u>課題となっていること</u>：①社会福祉協議会が市内 2 箇所の地域包括支援センター業務を担っている（委託型）。一方、社会福祉協議会として、ボランティアセンターを開設したことから、そのマッチングやオペレーター業務で、本来の地域包括支援業務に十分な時間を確保できていない。被災状況だけでなく、要配慮者の「生活を視る」業務を早期に担いたいと感じている。</p> <p>②復旧作業において、被災住民間で格差が生じている。若い年齢の世帯に比べて、高齢者世帯、独居世帯には手付かず、遅れがちな状況である。</p> <p><u>今後の予定</u>：県や他の市町村社会福祉協議会、関東ブロックの社会福祉協議会からの支援がある見込み。通常業務への移行、職員の休養の確保が見込めると期待している。</p> <p><u>今後懸念されるため、職員が留意している健康課題</u>：</p> <p>①高齢者をはじめとする要配慮者の心身の悪化</p> <p>②被災の長期化が招く心理面への影響（被災者・職員ともに）</p> <p>③復旧・復興がなかなか進まない被災高齢者の孤立化</p> <p><u>考察</u>：高齢者の健康状態の悪化、孤立化を防ぐための保健活動が重要である。他の社会福祉協議会からの支援により、センター職員の通常業務への移行が進み、職員の心身の負担軽減が望まれる。</p>
14 : 30 15 : 00	<p>足利市と全戸訪問に関する連絡・調整（担当者と電話連絡）</p> <p>被災状況を確認しながら移動（参考：写真）。表面排水が十分に行われていない土地が散見される。</p>

16：15	担当理事と足利市健康増進課が実施する全戸訪問のマンパワー確保について連絡・調整
16：30	栃木県内大学機関と足利市全戸訪問支援について連絡・調整

(参考) 写真 佐野市内被災地域の中学校グラウンドの様子  
汚泥・水溜りの状態で、グラウンドとして使用できる状態ではなかった。



### 3. 10月27日の予定

引き続き、被災の大きかった県南エリア（栃木市等）において活動する。